

議事1: 瀬戸内海クルーズの推進について

目次

1. 瀬戸内海クルーズ推進会議の設置と推進体制について
2. 瀬戸内海について
3. 瀬戸内海クルーズについて
4. 瀬戸内海クルーズの現状について
5. 瀬戸内海クルーズを推進する上での課題と課題解決に向けた必要な取組み

※2. ～5. については、瀬戸内海クルーズ推進会議第1回全体会議(2018年12月13日)資料
(ただし、4. のクルーズ船寄港実績等に関し、一部時点更新)

1.瀬戸内海クルーズ推進会議の設置と推進体制について

瀬戸内海クルーズ推進会議の設置

- 我が国におけるクルーズニーズの急増を踏まえ、瀬戸内海や瀬戸内海を囲む諸港、諸地域において、瀬戸内海独自の魅力、特色を活かした独自のクルーズ振興を図り、瀬戸内海が「エーゲ海」や「カリブ海」等に並ぶブランド力の高いクルーズの海となることを目指し、沿岸自治体、国の機関で構成される「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」の下に、平成30年6月に同会議が設置。
- 平成30年12月13日(木)、「瀬戸内海クルーズ推進会議第1回全体会議」を開催。

【瀬戸内海クルーズの定義】

- ・一般的なクルーズの概念にとらわれず、瀬戸内海の魅力、特色を活かした多様なクルーズサービス、体験機会を提供出来るよう、以下の特徴を有するクルーズ、観光体験の出来るものを「瀬戸内海クルーズ」と定義する。
- 1) 瀬戸内海において、クルーズ船の大・小、外航・内航を問わず、カジュアルクラスからラグジュアリークラスまで、さらにその上のハイエンドな観光客層に対し、満足度の高い多様な観光周遊、観光体験の機会を提供する。
 - 2) 海域でのクルーズにとどまらず、瀬戸内海に浮かぶ諸島への上陸により観光体験の機会を提供する。
 - 3) 一般的なクルーズ船の定義にとらわれず、当該海域を航行する定期航路等の旅客船も瀬戸内海クルーズの構成要素ととらえ、オプションなクルーズ、観光体験の機会を提供する。
 - 4) 瀬戸内海を囲む諸地域においては、その寄港地を拠点に、瀬戸内海により育まれた歴史的・文化的魅力に富んだ多様な観光体験の機会を提供する。

「瀬戸内海クルーズ推進会議」第1回全体会議 結果概要①

- 瀬戸内海には数多くのクルーズ船の寄港が可能な港湾が存在するもののクルーズ船の寄港地が一部の港湾に限定されていること等、瀬戸内海全体としてクルーズ船寄港による各種需要をうまく取り込めていない状況です。
- 瀬戸内海のクルーズ振興についても、国、自治体、民間団体等が個別に取り組んできており、関係者が一体的にクルーズ振興するためのまとまった推進母体が存在しておらず、対外的に「瀬戸内海クルーズ」を発信する機能が不足していました。
- このため、瀬戸内海沿岸自治体、国の機関で構成する「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」の下に、瀬戸内海クルーズの振興を図り、瀬戸内海が世界的に知名度の高い「エーゲ海」や「カリブ海」等に並ぶブランド力の高いクルーズの海となることを目指す「瀬戸内海クルーズ推進会議」(以下「推進会議」という。)を設置し、第1回全体会議を12月13日に開催いたしました。

開催概要

- 【開催日】平成30年12月13日(木) 10:00~12:00
- 【場 所】海技試験場(広島合同庁舎4号館付属棟)
- 【次 第】(1)「瀬戸内海クルーズ推進会議」規約(案)について
 (2)代表者の選出 (3)座長の選出
 (4)瀬戸内海クルーズの推進について
 (5)今後の取組みの進め方



「瀬戸内海クルーズ推進会議」第1回全体会議 開催状況

「瀬戸内海クルーズ推進会議」全体会議 構成員名簿

区分	構成員	区分	構成員
重要港湾以上の 港湾管理者を兼ねる地 方自治体	大阪府	民間団体等	(一社)中国経済連合会
	大阪市		四国経済連合会
	兵庫県		(一社)せとうち観光推進機構
	神戸市		(一社)日本プロジェクト産業協議会
	和歌山県	国の機関	近畿地方整備局
	岡山県		中国地方整備局
	広島県		四国地方整備局
	呉市		九州地方整備局
	山口県		近畿運輸局
	徳島県		神戸運輸監理部
	香川県		中国運輸局
	坂出市		四国運輸局
	愛媛県		九州運輸局
	今治市		
	新居浜港務局		
	下関市		
	福岡県		
北九州市			
大分県			

赤字:九州エリア会議関係

「瀬戸内海クルーズ推進会議」第1回全体会議 結果概要②

- 瀬戸内海クルーズ推進会議の代表として(一社)中国経済連合会 苅田 知英 会長、副代表として四国経済連合会 千葉 昭 会長を選出。
- 同会議において、近畿・中国・四国・九州の各エリアにエリア会議を設置し、エリアごとの瀬戸内海クルーズの推進を図ることを確認。
- 同会議において、本推進会議として進める取組みに関する議論がなされ、以下の5つの取組みを進めることが承認。

瀬戸内海クルーズ推進会議として進める取組み		具体的な進め方
【取組1】	港湾での受入環境改善	<ul style="list-style-type: none"> ・年度内を目途に、港湾管理者、地方自治体が、“港湾での受入環境”や“港から観光地へのアクセス性”について取組状況・課題を、各エリア会議で報告するとともに、改善等に向けた取組事項(アクションプラン)を策定。 ・さらに、ターゲットにするクルーズ船(例:小型のプレミアム)や寄港の仕方(例:沖泊)を設定。 ・次年度以降、開催する全体会議、各エリア会議にて、アクションプランの進捗状況を報告。
【取組2】	港から観光地へのアクセス性向上	
【取組3】	瀬戸内海クルーズとしての情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・年度内を目途に、「瀬戸内海クルーズ情報プラットフォーム」のプロトタイプを構築し、運用を開始。 ・次年度以降、港湾管理者・地方自治体・民間団体等からの情報提供を踏まえ、プラットフォームの掲載内容の充実を図る。
【取組4】	船社への誘致活動	<ul style="list-style-type: none"> (1)外国クルーズ船社等からの問い合わせへの体制づくり ・関係者の連絡網の構築や、想定される質問への回答の充実を図り、年度内「瀬戸内海クルーズ Consultation Service(仮称)」のサービス開始。 (2)外国船社等との接点づくり ・2019年4月に開催されるマイアミシートレードへの参加し、“瀬戸内海クルーズ”として初めての誘致活動を開始
【取組5】	クルーズ船社の航行・寄港に関するサポート体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年度内は、外国船社等に対してヒアリングを通じて、外国船社等が航行や入出港において必要としている情報やサービス内容を把握し、サポート体制を構築する。 ・次年度以降、「瀬戸内海クルーズ情報プラットフォーム」への情報掲載。

＜主な意見内容＞

- 目標としてクルーズ船の寄港回数を多くするのか、それとも何か質を高めていくのか、一緒にすると議論も拡散すると思うので、例えばこの地域は大型船に適しているとか、この地域は小型船のハイクラスが適している等整理して議論をしていければと思う。
- 港からの交通のアクセス改善が課題となっているところもあると思うので、今後よく状況を確認しながら連携して取り組んでいきたい。
- 民間では手の届かないところもあるので、課題などをここで明るみに出して、一つ前に進めることができれば、1隻でも多くの船が入ってくるのではないかなと思う。
- 全体的な課題がなかなか見えてこない、分かりにくいところもあるので、瀬戸内海クルーズ情報プラットフォームで情報発信できると言うことになれば非常に有意義なものになる。
- おもてなし自体を個々の港で考えてやっているため、おもてなしの内容が被るところもある。瀬戸内海に関する官民が集まって協議できる貴重な場だと思うので、この機会に連携を密にしてクルーズ誘致に取り組んでいけたらと思う。
- 地域単独では観光地も限られるが、瀬戸内海として情報発信や誘致活動ができるのであれば、新たな視点が生まれたり、海外船社にとってのインパクトが強いのではないかなと思う。
- 岸壁の整備についてはイメージが湧くが、それ以外の受入環境の整備という点についてはファーストポートでなかったりすることもあり、他の港がどういった受入環境の整備をされてるのかというところを、この会議の中で伺いながらクルーズの振興を促進できるよう進めて参りたい。
- ラグジュアリー船では広域での連携が課題となっている。規制等、情報発信できれば有効と考えるので、新設されるプラットフォームに期待する。
- 施設の老朽化が目立つようになっている。みなとオアシスを核としたにぎわいを目指し、計画変更に取り組んでいる。

瀬戸内海クルーズ推進会議の推進体制

瀬戸内海クルーズ推進会議は、重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体、民間団体等、国の機関から構成される『全体会議』及び、近畿・中国・四国・九州の各エリアに係る構成員から構成される『エリア会議』から構成。

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

瀬戸内海クルーズ推進会議 代表：苅田中国経済連合会会長（中国電力会長）、副代表：千葉四国経済連合会会長（四国電力会長）

全体会議

総括事務局：中国地方整備局（港湾空港部）
事務局：近畿地方整備局、四国地方整備局、九州地方整備局（各港湾空港部）

【メンバー】

- ・重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体
- ・広域的活動する民間団体等
- ・国の機関（各地方整備局・運輸局）

【役割・取組内容】

- ・瀬戸内海の全体の課題整理
- ・瀬戸内海全体におけるクルーズ振興方策の検討
- ・クルーズ振興に関する取組みの実行及び全体の取組の進捗管理

情報共有  提案・報告

エリア会議

【メンバー】

- ・各エリアの重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体
- ・各エリアの民間団体等
- ・各エリアの地方自治体
- ・各エリアの国の機関（各地方整備局・運輸局）

【役割・取組内容】

- ・各エリアの課題整理
- ・各エリアのクルーズ振興方策の検討
- ・クルーズ振興に関する取組みの実行及びエリアの取組の進捗管理

近畿エリア会議

事務局：近畿地方整備局
（港湾空港部）
開催予定：第1回（3月下旬）

中国エリア会議

事務局：中国地方整備局
（港湾空港部）
開催予定：第1回（2月7日）
第2回（3月下旬予定）

四国エリア会議

事務局：四国地方整備局
（港湾空港部）
開催予定：第1回（2月25日）

九州エリア会議

事務局：九州地方整備局
（港湾空港部）
開催予定：第1回（2月15日）

九州エリア会議の今後の進め方(案)

項目	平成30年	平成31年					
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
瀬戸内・海の路ネットワーク 推進協議会						幹事会	総会
瀬戸内海クルーズ推進会議	第1回全体会議	全体会議で提示された取組の方針等を報告	第1回九州エリア会議	取組の方針等について各関係者取組の現状課題、今後の対応の方向性について報告	エリア会議での議論の報告	第2回全体会議	合同会議【第3回全体会議・第3回エリア会議】

追加情報: シートレード グローバル 2019の出席 → 成果報告 → 第2回全体会議
 追加情報: H30d報告 H31d計画 → 第2回全体会議

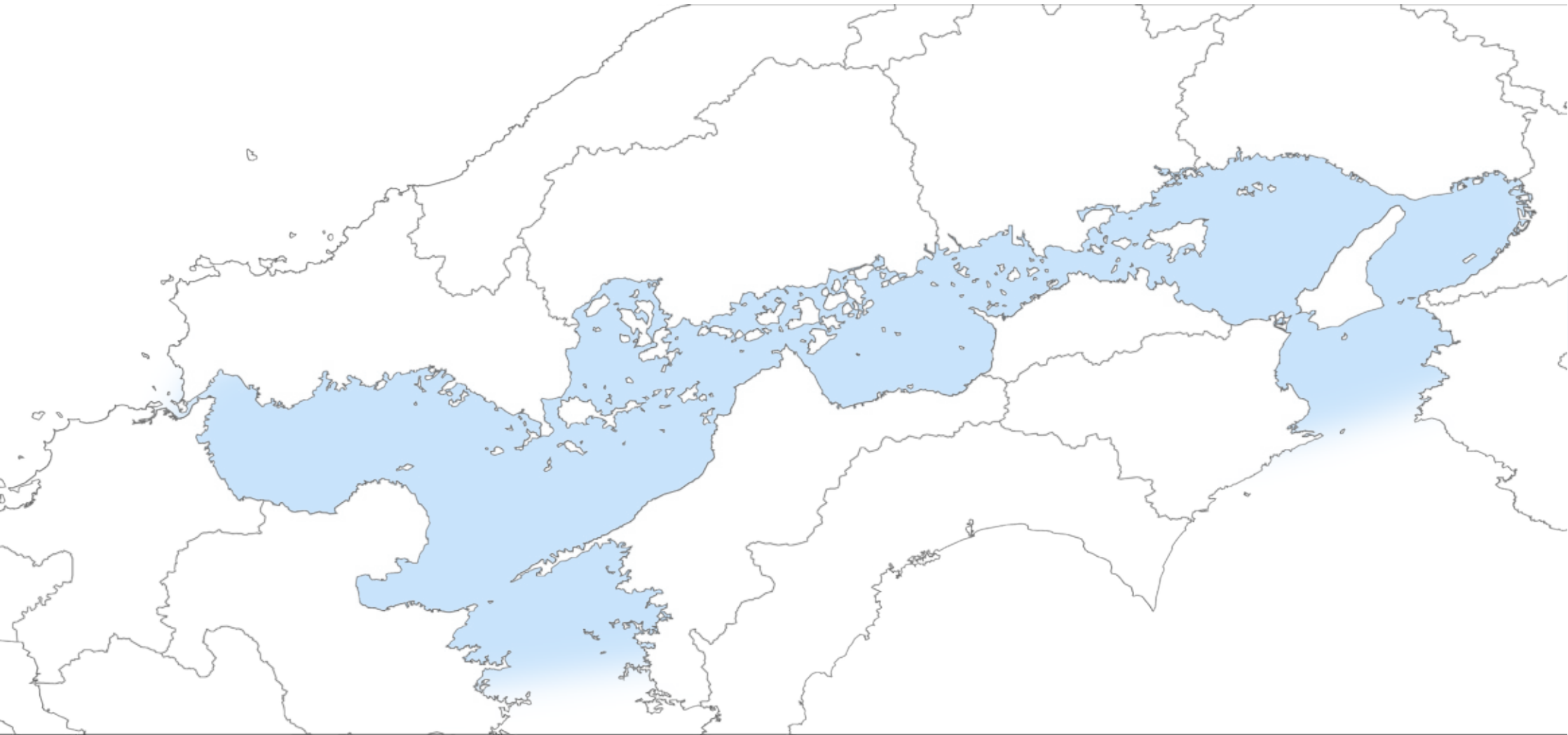
★山口県の宇部市にて、「総会」と「瀬戸内海クルーズ推進会議(合同会議)」を同時に開催予定

2. 瀬戸内海について

(瀬戸内海クルーズ推進会議第1回全体会議(2018年12月13日)資料)

瀬戸内海のエリア

○近畿地方の和歌山県から、九州の大分県までの範囲。



瀬戸内海の持つポテンシャル①(多島美の景観)

○瀬戸内は、大小さまざまな島と静穏な海が織りなす、他には無い美しい景観を持ち、刻々と変化する景色は旅客を飽きさせない。昼間、景色を楽しむクルーズに適し、瀬戸内海の魅力を海からの視点で再発見が可能。



瀬戸内海の持つポテンシャル②(歴史・文化)

○大陸文化を伝えるための海上交通路として古くから重要な役割を担っており、干満差により発生する激しい潮流が航行上の難所を作りだし、潮待ち港が発達。そうした中で、港や水域を中心に各時代の息吹を感じる史跡・文化が残る。



瀬戸内海の持つポテンシャル③(観光地・イベント)

○瀬戸内沿岸には、世界遺産をはじめとした集客力のある観光地が多数立地するとともに、港や水辺周辺で、多彩なイベントが開催される等、寄港したクルーズ旅客を魅了する環境が整っている。



瀬戸内海の持つポテンシャル④(島嶼部の魅力)

○景観に加えて、島自体に多様な観光資源が存在している。




3. 瀬戸内海クルーズについて

(瀬戸内海クルーズ推進会議第1回全体会議(2018年12月13日)資料)

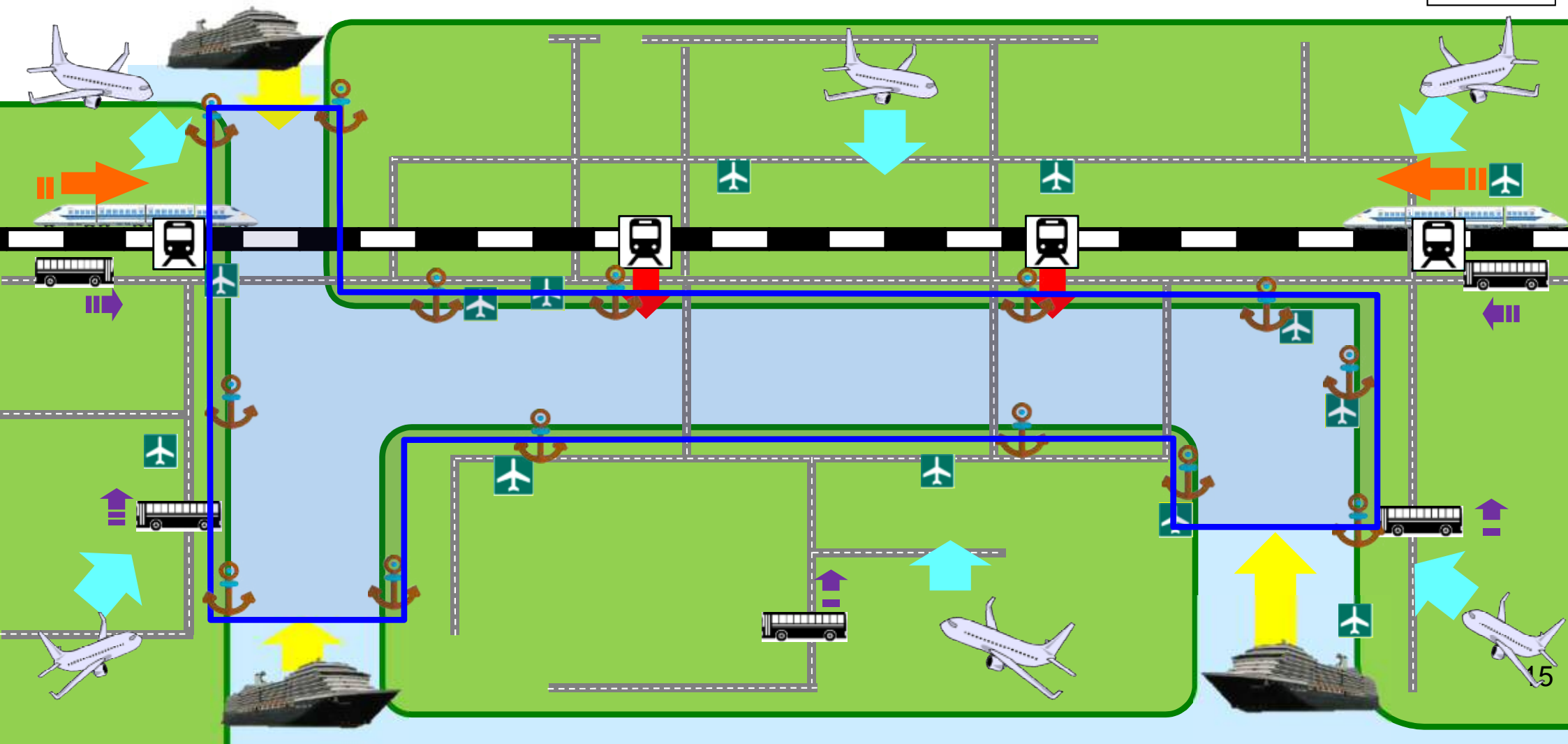
瀬戸内海へのアクセス

○瀬戸内海へは、3方向(関門海峡、豊後水道、紀伊水道)から進入が可能。他のエリア(関東・九州・外国等)を出発したクルーズ船は、いずれかの方向から入ってきて、瀬戸内海を楽しむことが可能。

○また、飛行機・鉄道・高速バス等の豊富な交通手段によりアクセスが可能。外国人旅行者の場合、飛行機により瀬戸内海に直接来訪可能であり、国内の他地域からも新幹線等によりスムーズに瀬戸内海に来訪可能。

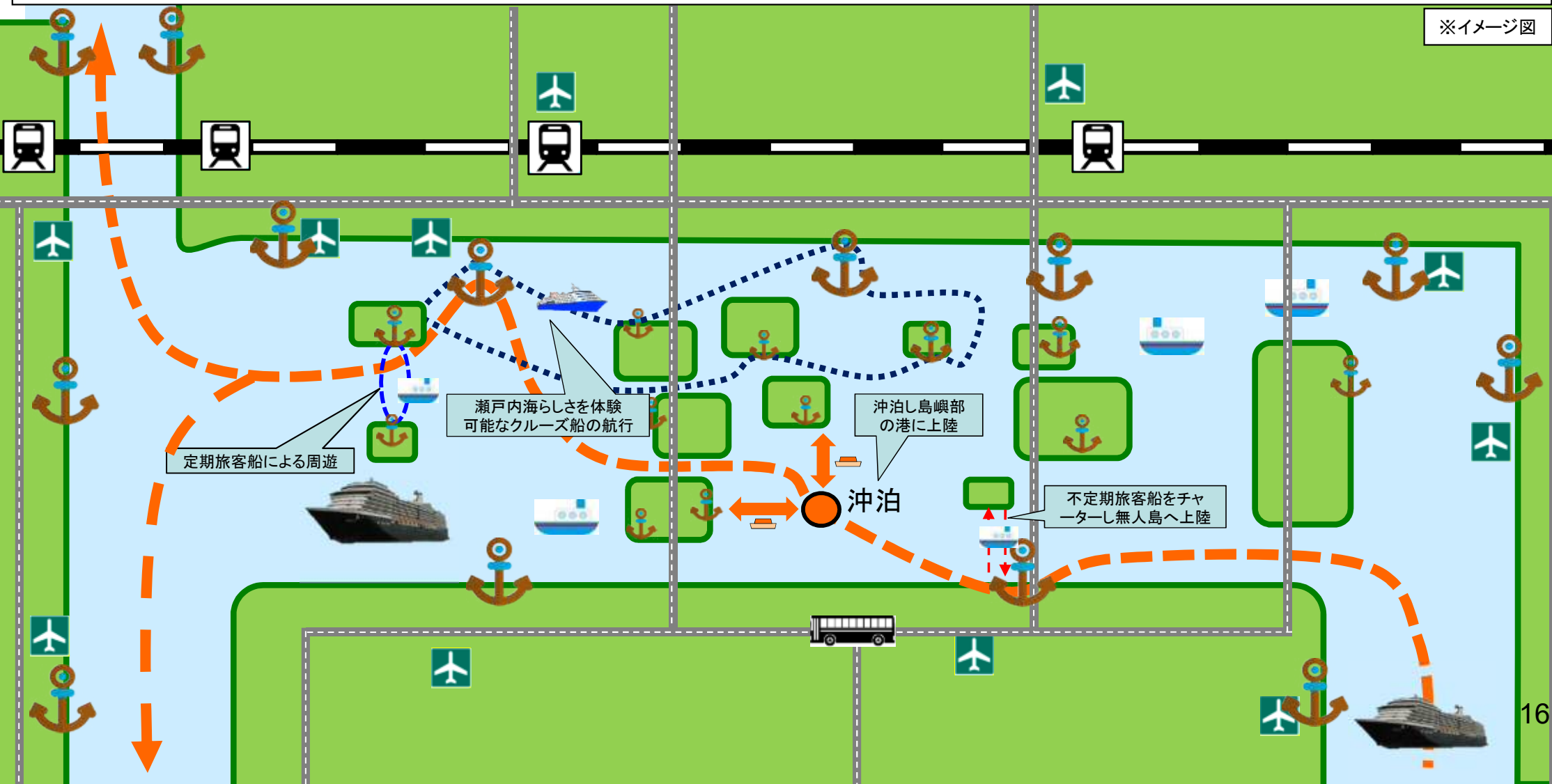
 島嶼部、沿岸部など瀬戸内海クルーズを構成するエリア

※イメージ図



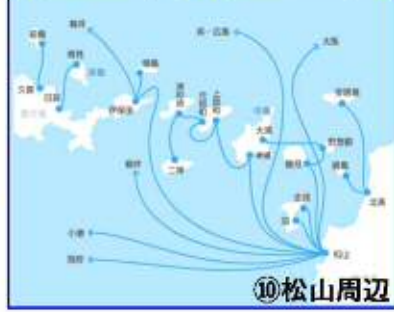
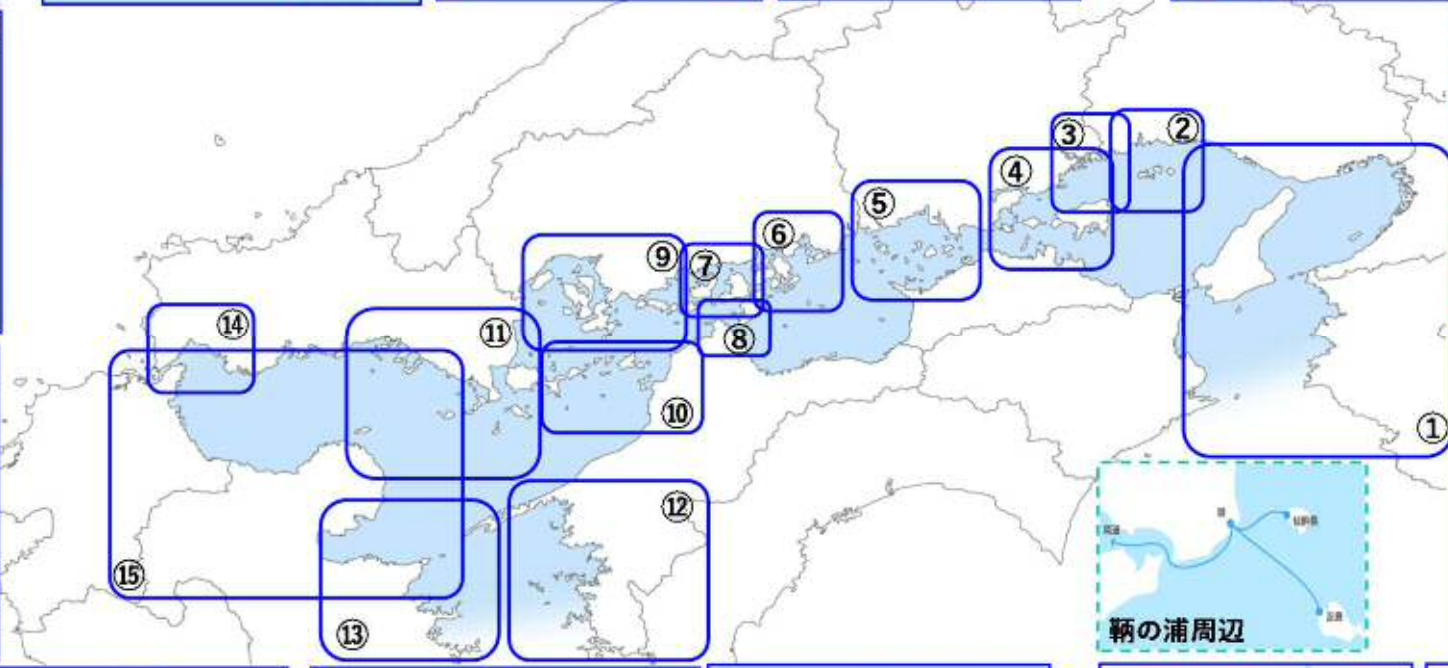
瀬戸内海クルーズの目指すべきクルーズイメージ

- 現在、大型クルーズ船の寄港に加えて、中小型のクルーズ船が沖泊しテンドーボートで島嶼部の港湾に上陸したり、瀬戸内の島嶼部を主に航行するクルーズ船が登場したり、寄港後、島嶼部・沿岸部を旅客船で周遊したりする等、様々なクルーズの仕方が現れてきている。
- 瀬戸内海クルーズでは、これまでの寄港対応に加えて、島嶼部・沿岸部といった観光資源を十分に生かし、自由度の高い、多彩なクルーズを企画する船社等に十分に応えられる環境作りを目指す。



【参考】瀬戸内海におけるオプションなクルーズ

○クルーズ船での航行に加えて、旅客船ネットワークにより約110島へクルーズすることが可能。



4. 瀬戸内海クルーズの現状について

(瀬戸内海クルーズ推進会議第1回全体会議(2018年12月13日)資料)

※クルーズ船寄港実績等については一部時点更新

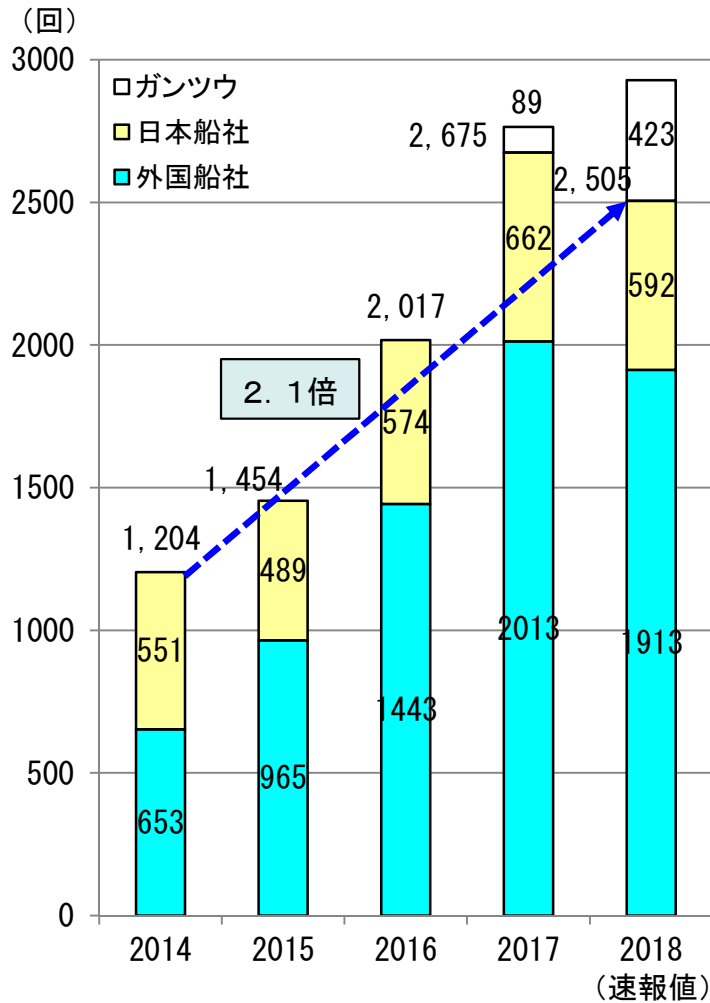
瀬戸内海における港湾のクルーズ船寄港実績の推移

○全国および瀬戸内海における港湾へのクルーズ船寄港実績は、いずれも過去5年で約2.1倍に増加。

全国のクルーズ船寄港回数実績

2013～2018年のクルーズ船寄港実績

上位10港（2018年）

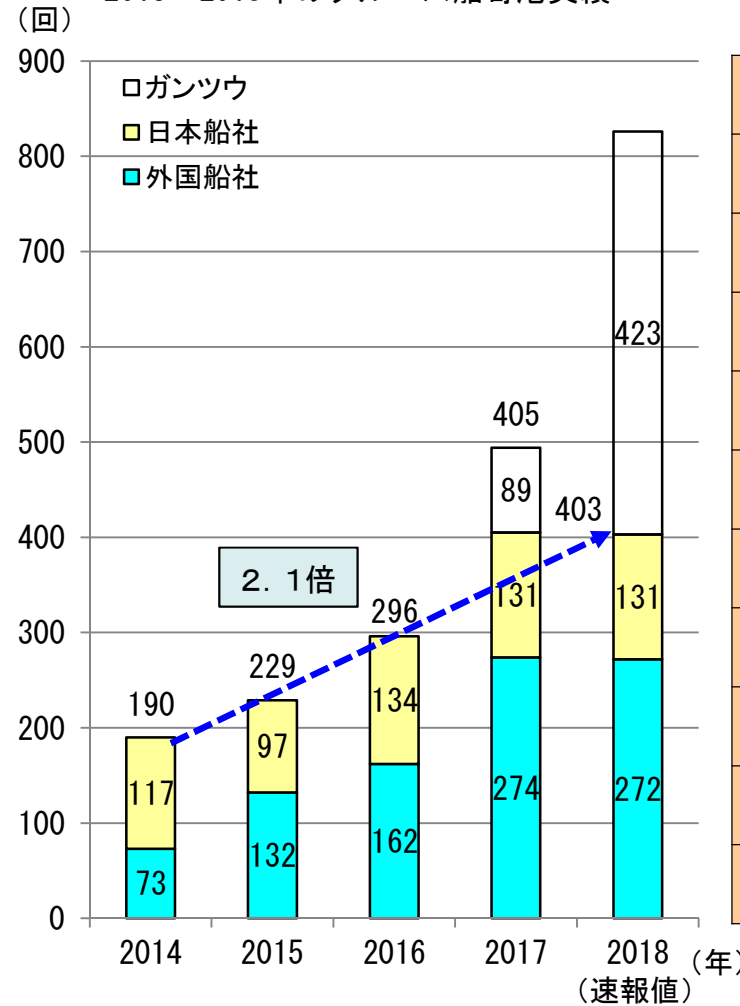


順位	港名	回数
1	博多	279
2	那覇	243
3	長崎	220
3	横浜	168
5	平良	143
6	神戸	135
7	ベラビスタマリーナ	122
8	佐世保	108
9	石垣	107
10	鹿児島	100

瀬戸内海における港湾のクルーズ船寄港実績

2013～2018年のクルーズ船寄港実績

上位10港（2018年）

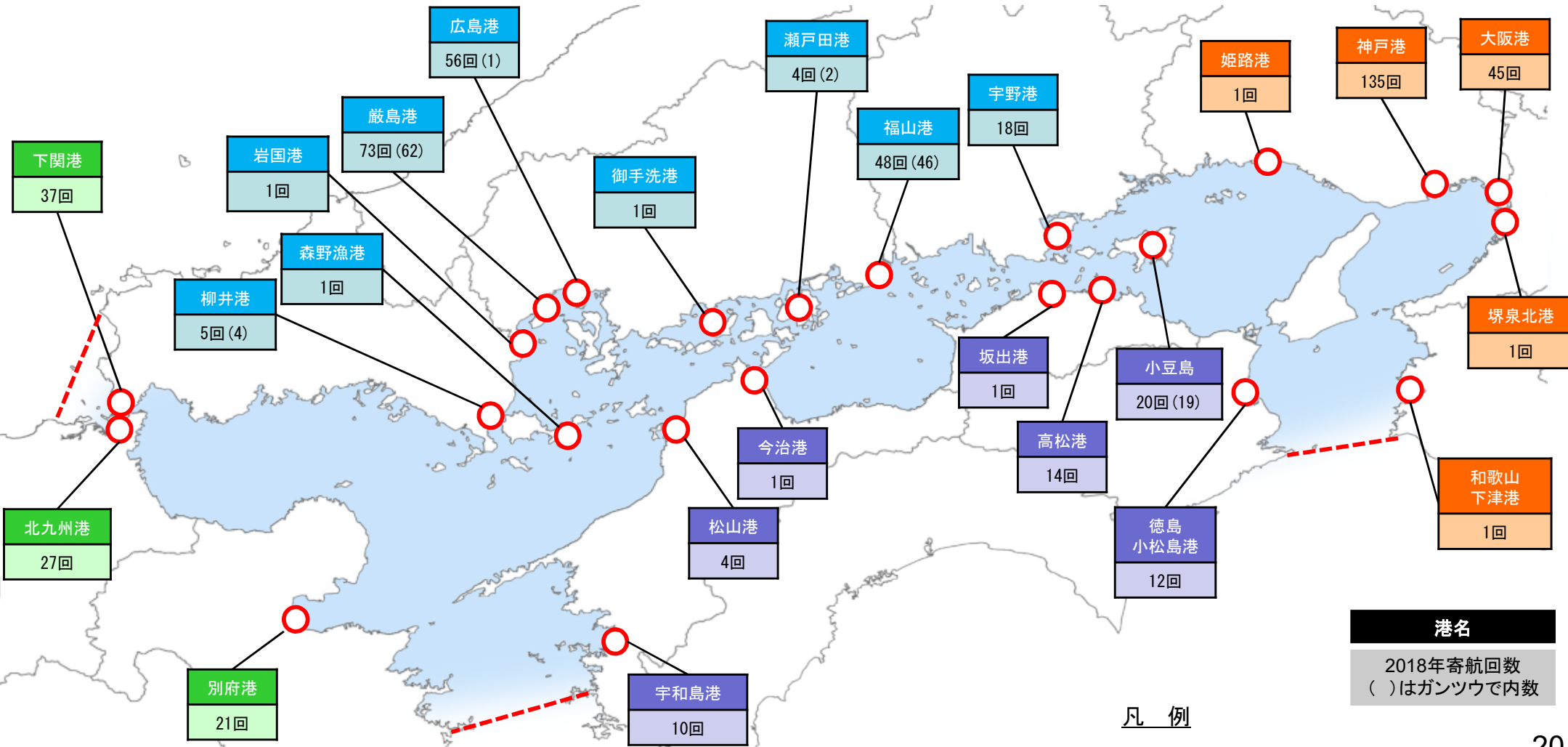


順位	港名	回数
1	神戸	135
2	広島	55
3	大阪	45
4	下関	37
5	北九州	27
6	別府	21
7	宇野	18
8	高松	14
9	徳島小松島	12
10	宮島	11

参考 ガンツウ: 2017年10月17日(火)広島県尾道市で就航を開始した日本船社

瀬戸内海におけるクルーズ寄港箇所(外国船社・日本船社)(2018年)

○外国船社及び日本船社のクルーズ船寄港箇所は、点在している。

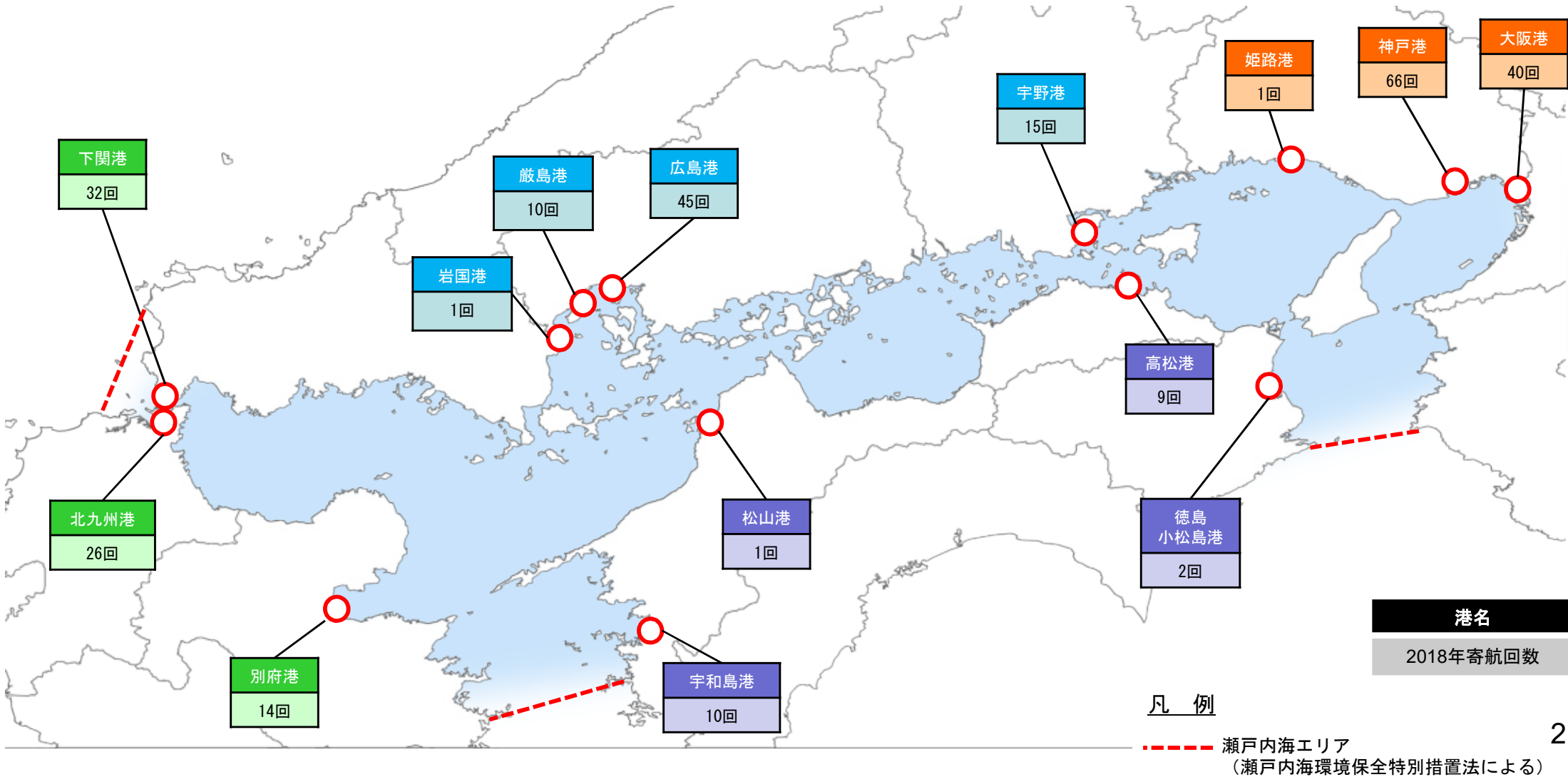


凡例

--- 瀬戸内海エリア
(瀬戸内海環境保全特別措置法による)

瀬戸内海におけるクルーズ寄港箇所(外国船社のみ)(2018年)

○他方で、外国船社のクルーズ船に限って見た場合、寄港箇所が限定されるとともに、回数も少ない。



瀬戸内海の航行ルート状況(2017年)

○主なクルーズ船社の航行実績としては

約3割(中型・小型のクルーズ船を航行する船社)が瀬戸内海の備讃瀬戸航路と来島海峡の間を航行。

約7割(大型のクルーズ船を運航する船社)が、太平洋周りで航行。

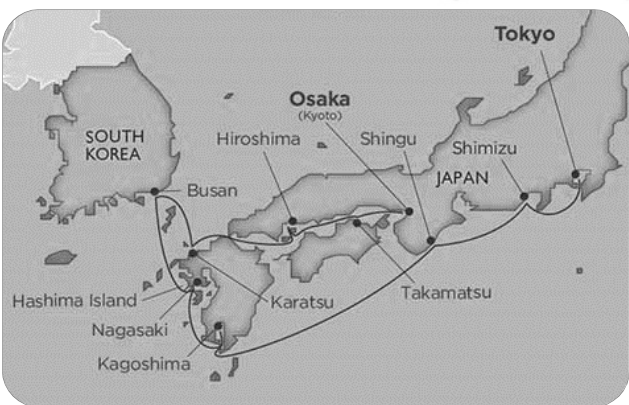
【備讃瀬戸航路と来島海峡の間の海域を航行する船舶は相対的に少ない】



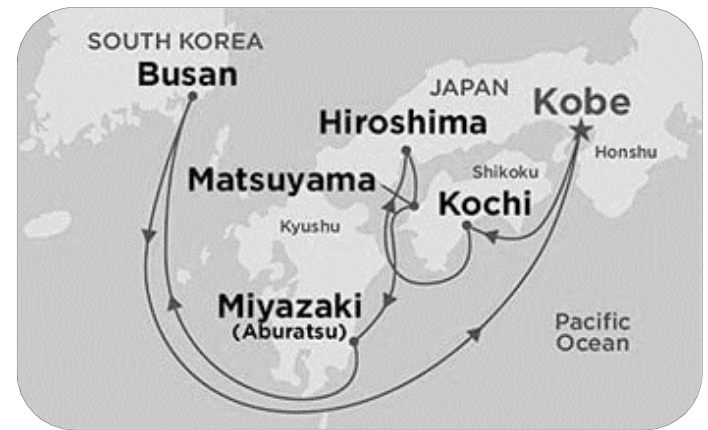
Ponant



Noble Caledonia



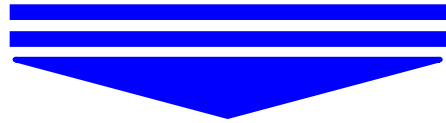
Windstar (2019年予定)



Princess Cruises (2019年予定)

出典) Princess Cruise HP、Ponant HP、Noble Caledonia HP、Windstar HPより作成

- 着実に寄港回数は増加しているものの、全国的な伸び率と比較すると低い。
- 複数の港で寄港実績があるが、外国船社に限ってみると、寄港している港は限定的。また、瀬戸内海には、まだまだ寄港が期待される港が多数存在。
- 瀬戸内海の備讃瀬戸航路と来島海峡の間の海域を航行する船舶は相対的に少ない



瀬戸内海には豊富な資源やクルーズ船を受け入れる港湾があるものの、十分な寄港につながっていない。

瀬戸内海にクルーズ旅客を呼び込むためには…

■瀬戸内海クルーズの振興に向けた基本認識

- ・瀬戸内海へ“いざなう(効果的な情報発信、積極的な誘致活動など)”とともに、来訪した方をしっかりと“おもてなす(ハード・ソフト・人による充実したサービスの提供)”ことが重要。
- ・とりわけ、外国クルーズ船社からみて、玄関口となる“港湾”※という現場を持っている国・港湾管理者・地方自治体等は、港湾を軸とした「いざなう」、「おもてなす」に関する取組を行っていくことが重要。また、各者毎の取組ではなく、“瀬戸内海クルーズ”として、一体的にかつ民間事業者とも協働して行っていくことが、瀬戸内海のポテンシャルを活かす上で効果的。



※港は水域に面し、沿岸部や島嶼部の観光資源に近接し、旅行者を取り込む上で周遊拠点となり得る場所

・しかしながら、現時点の港湾に関連した「いざなう」、「おもてなす」面での状況としては…

- 地方港湾も含めて、クルーズ船社・クルーズ旅客を受け入れる環境が十分に整っていない。
- 寄港後、港から観光地までの円滑な移動手段が十分とは言えない。
- 個別での問い合わせ対応、情報発信は出来ているが、“瀬戸内海クルーズ”として情報発信が出来ていない。
- 各港湾・地方自治体で、個別に誘致活動を行っているが、“瀬戸内海クルーズ”としての売り込みが出来ていない。
- 瀬戸内海の航行や各港湾の入出港には複数のルールが存在しており、それらを一括して外国クルーズ船社に分かりやすく伝える手段が確立できていない。また、外国クルーズ船社が、それらについてどういった懸念を持っているかについて、網羅的に把握できていない。

5. 瀬戸内海クルーズを推進する上での課題と 課題解決に向けた必要な取組み

(瀬戸内海クルーズ推進会議第1回全体会議(2018年12月13日)資料)

瀬戸内海クルーズ推進会議の取組

○クルーズを振興する上で、ハード面・ソフト面ともに十分なものが船社・代理店・旅客等に提供が出来ていない。このことを課題としてまず関係者で認識し、解決に向けて瀬戸内海クルーズ推進会議では主に5つの取組を進める。

課題	瀬戸内海クルーズ推進会議として進める取組
港湾管理者による外国船社の受入準備(ソフト面・ハード面・人材)が十分に出来ていない。	▶ 【取組1】 港湾での受入環境改善
港から観光地へのアクセスも含めたソフトが十分でない。	▶ 【取組2】 港から観光地へのアクセス性向上
外国船社に対して瀬戸内海の港湾情報、受入体制の情報が発信出来ていない。	▶ 【取組3】 瀬戸内海クルーズとしての情報発信
港湾管理者と外国船社とのつながりが十分でない。	▶ 【取組4】 船社への誘致活動
航行や入出港に関する複数のルールが存在するも、外国船社に十分な理解がされていない。	▶ 【取組5】 クルーズ船の航行・寄港に関するサポート体制の充実

取組1 港湾での受入環境改善

- クルーズ船誘致やおもてなしサービス向上などの取組を行う体制づくり。
- クルーズ船を受け入れるための施設整備やクルーズ旅客の利便性や安全性の向上のための受入環境の改善。

■クルーズ船の受入環境整備の受入事例

宇野港への積極的なクルーズ客船の誘致や寄港回数の増加に向けた取り組みを行うことを目的に、平成30年3月20日に地域の関係機関の方々とともに「宇野港航路誘致推進会議」の下部組織として「宇野港クルーズ客船受入れ検討タスクフォース」(座長:玉野市長)を新たに設置。

【タスクフォースの関係者】

岡山県 玉野市 中国地方整備局 玉野商工会議所
 宇野港航路誘致推進協議会 公益社団法人玉野市観光協会
 うの港13(うのポートサーティーン) 特定非営利活動法人 UNOICHI実行委員会
 公益社団法人岡山県観光連盟
 (一社)玉野コミュニティ・デザイン
 (一社)日本旅行業協会 中四国支部 岡山地区委員会

当タスクフォースの取組として、10月20日に初寄港したクルーズ船「スター・レジェンド」の歓迎セレモニーを実施。



歓迎挨拶(岡山県知事)



お出迎えの様子



マルシェ開催の様子



■クルーズ船の受入環境整備

クルーズ船受入にあたっては、港毎にメインターゲットとするクルーズ船を想定(大型、中小型、沖泊からの寄港)して必要となる受入環境整備を行う。また、みなとオアシスを持つ港においては、クルーズ船旅客に憩いの場等を提供する観点から、改善に向けた取組も併せて行う。

クルーズ船規格	岸壁の必要水深(目安)
5,000GT未満	-5.5m
5,000GT~30,000GT	-7.5m
30,000GT~70,000GT	-9.0m



沖合に停泊したクルーズ船



テnderポート又は現地通船での上陸



取組3: 瀬戸内海クルーズとしての情報発信(例: 瀬戸内海クルーズ情報プラットフォーム)

- 地方港湾も含めてクルーズ船が、寄港するにあたって必要な港湾の情報(接岸可能な岸壁の諸元、航路幅、水深等)が表示されるとともに、旅客船ターミナルの情報(営業時間、航路情報、接続する鉄道・バスの運行情報等)もあわせて表示。
- 瀬戸内海の島嶼部を中心に、多様で特色のある観光地の情報(営業時間、入館料、現地へのアクセス手段等)を表示。

瀬戸内海の魅力とは

瀬戸内海クルーズとは

瀬戸内海クルーズプラットフォーム

日本語

English

マップから港を探す 🔍

マップから瀬戸内海の観光地を探す 🔍

近畿エリア **中国エリア** 四国エリア 九州エリア

- ・大阪
- ・兵庫
- ・和歌山
- ・**広島**
- ・山口
- ・岡山
- ・徳島
- ・香川
- ・愛媛
- ・福岡
- ・大分

近畿エリア **中国エリア** 四国エリア 九州エリア

- ・大阪
- ・兵庫
- ・和歌山
- ・**広島**
- ・山口
- ・岡山
- ・徳島
- ・香川
- ・愛媛
- ・福岡
- ・大分

敵島神社

旧海軍兵学校

ミツ子島(塩の島)

竹原(安芸の小京都)

大久野島(うさぎ島)

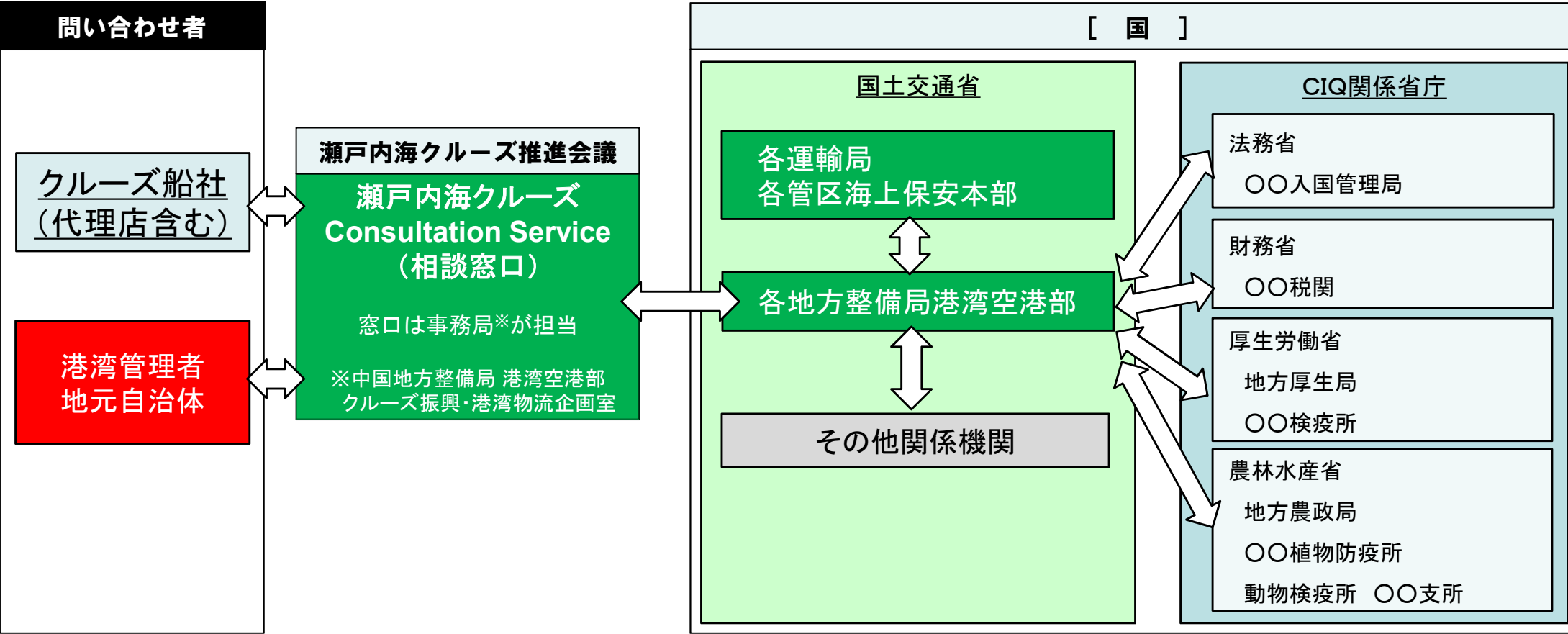
多々羅大橋

向上寺三重塔

能島城跡(村上水軍関係)

取組4 船社への誘致活動（例：瀬戸内海クルーズ Consultation Service(仮称)のイメージ）

○クルーズ船社等からの問い合わせに対し、瀬戸内海クルーズ推進会議に設置した瀬戸内海クルーズ Consultation Service(相談窓口)が、各関係省庁等との情報共有・連携を図り、相談窓口または関係行政機関から回答。



【想定される問い合わせ例】

- 外国クルーズ船を、●●港に入港することを計画しているが、CIQのサービスを受けることが可能か。
- ■■港に寄港を予定しているが、港の周辺にある△△観光地までの交通サービスの提供はしてもらえるのか。
- 大型の××t級のクルーズ船を■■港に入港を計画しているが、入港における条件やルート、安全性を確認したい。

取組4 船社への誘致活動(シートレード・クルーズ・グローバル(マイアミシートレード))

○2019年4月にアメリカのマイアミで開催される「シートレード・クルーズ・グローバル2019」に、瀬戸内海クルーズ推進会議として参加し、“瀬戸内海”として初めての誘致活動を開始する。

■シートレードの概要

- シートレード・クルーズ・イベントはカンファレンス、フォーラム、展示等からなる世界的イベント。
- 30年程の歴史があり、各地域、各産業界のクルーズ関係者が集結し、ネットワークをつくる機会。
- シートレード・クルーズ・イベントは全世界が対象のグローバルのほか、地中海、アジア、ヨーロッパ、中近東とクルーズ対象地域別にも開催。
- グローバル・シートレードはフォートローダーデールまたはマイアミ(いずれも米国フロリダ州)で開催。

【参加者】

○各 国

政府観光局・港湾局／造船・修繕ヤード／船用メーカー／客船の設備・システム・エンターテイメント等のサプライヤー／クルーズ・オペレーター／ツアーオペレータなど

○日 本

観光庁JNTO／旅行会社／港湾管理者・観光担当者(自治体)

【参加者一覧(2018年)】

団体・港名	所属	団体・港名	所属
北海道クルーズ振興協議会	網走市港湾課 釧路市港湾空港振興課	境港	境港管理組合
東北クルーズ振興連携会議	秋田県港湾空港課	大阪港	大阪市港湾局
東京港	東京都港湾局	高松港	香川県交流推進課
名古屋港	愛知県国際観光コンベンション課	広島県	広島県港湾振興課
高知県	高知県港湾振興課	山口県	山口県観光政策課
新潟港	新潟県港湾振興課	北九州港	北九州市港湾空港局
伏木富山港	富山県観光振興室	鹿児島県	鹿児島県PR・観光戦略部
金沢港	石川県港湾活用推進室	JR	東日本旅客鉄道(株)秋田支社
岐阜県	岐阜県海外戦略推進課	JTB-GMT	JTBグローバルマーケティング & トラベル
福井県	敦賀市人道の港発信室	東武トップツアーズ	東京国際事業部
京都舞鶴港	京都府経済交流部	観光庁	国際観光課
		JNTO	日本政府観光局

【招聘船社候補(2019年)】

プリンセス・クルーズ	ポナン
クリスタル・クルーズ	ウインドスター・クルーズ
ロイヤル・カリビアン・クルーズ・リミテッド	バイキング・クルーズ
シルバーシー・クルーズ	ディズニー・クルーズ
ノルウェー・クルーズ・ライン・ホールディングス	ザ・リッツカールトン・ヨット・コレクション
カーニバルUK	MSCクルーズ

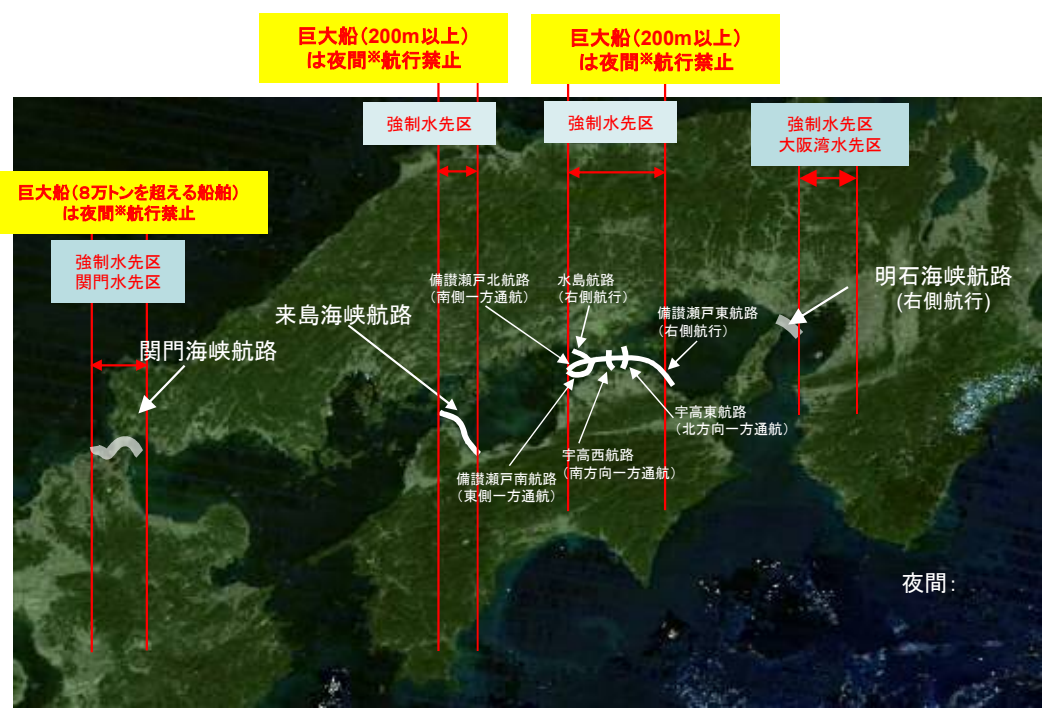
【日本ブースの様子(2018年)】



取組5 クルーズ船の航行・寄港に関するサポート体制の充実

- 瀬戸内海を航行や港湾への入港には、様々ルールが存在。また、韓国・中国等の外国から入港した際、FIRST PORTになる場合は、入国手続き等が発生するが、これらを円滑に実施する体制が必要。
- このため、瀬戸内海に寄港実績がある外国船社に対するヒアリングを通じ、外国船社からみて、実際、瀬戸内海を航行する際や、港湾へ入出港する際、留意すべき点を整理し、今まで瀬戸内海に寄港実績のない外航クルーズ船社に対し、適宜、情報を提供する。

■瀬戸内海を航行する上での主な航行ルール



・潮流や地理的状况等から、瀬戸内海においては、安全な航行環境を確保するため、様々なルールが存在している。
 ・このため、とりわけ、今まで瀬戸内海に寄港実績のない外国クルーズ船社等が航行を検討する際には、適宜情報提供を行うことで、安心して航行してもらえる環境を作る。

■港湾への入出港における基本的なルール (例) 広島港

項目	宇品地区	五日市地区
入港可能なトン数	7万ト級未満	7万ト级以上 (最大23万ト級)
入出港可能時間	制限なし	
回頭泊地(直径m)	490m	個別に対応
航路(幅/水深)	300m/-10m	250m/-12m
周辺の水域の利用状況	・漁船、貨物船等が航行	・漁船、貨物船等が航行

・入出港における基本的なルールを情報発信するとともに、各港における運用に関しても情報を発信。
 ・なお、クルーズ船の入出港において、港湾内の他の船舶との安全航行に十分に留意しつつ、可能な範囲で運用の見直しも行う。

取組1～5の具体的な進め方

- **取組1(港湾での受入環境改善)、取組2(港から観光地へのアクセス性向上)**
 - ・年度内を目途に、港湾管理者、地方自治体が、“港湾での受入環境”や“港から観光地へのアクセス性”について取組状況・課題を、各エリア会議で報告するとともに、改善等に向けた取組事項(アクションプラン)を策定。
 - ・さらに、ターゲットにするクルーズ船(例:小型のプレミアム)や寄港の仕方(例:沖泊)を設定。
 - ・次年度以降、開催する全体会議、各エリア会議にて、アクションプランの進捗状況を報告。

- **取組3(瀬戸内海クルーズとしての情報発信)**
 - ・年度内を目途に、「瀬戸内海クルーズ情報プラットフォーム」のプロトタイプを構築し、運用を開始。
 - ・次年度以降、港湾管理者・地方自治体・民間団体等からの情報提供を踏まえ、プラットフォームの掲載内容の充実を図る。

- **取組4(船社への誘致活動)**
 - (1)外国クルーズ船社等からの問い合わせへの体制づくり
 - ・関係者の連絡網の構築や、想定される質問への回答の充実を図り、年度内「瀬戸内海クルーズ Consultation Service(仮称)」のサービス開始。

 - (2)外国船社等との接点づくり
 - ・2019年4月に開催されるマイアミシートレードへの参加し、“瀬戸内海クルーズ”として初めての誘致活動を開始

- **取組5(クルーズ船の航行・寄港に関するサポート体制の充実)**
 - ・年度内は、外国船社等に対してヒアリングを通じて、外国船社等が航行や入出港において必要としている情報やサービス内容を把握し、サポート体制を構築する。
 - ・次年度以降、「瀬戸内海クルーズ情報プラットフォーム」への情報掲載。